春のお彼岸を迎える

宗祖、日蓮聖人のお手紙に『法華経を信ずる人は冬のごとし。ふゆは必ず春となる。未だ昔よりきかず、みず、冬の秋にかえれる事を。いまだきかず、法華経を信ずる人の凡夫となることを』。（妙一尼御前御消息）と書かれております。小さな吉凶や現象で本来の法華経信仰を忘れがちな我々、後世の凡夫達はこのお手紙の意味を考え、春のお彼岸をお迎えしたいものだと思います。

（公元）

公輔上人
三月六日
先師法要篳篥（ひちりき）演奏
雅楽デビュー

「**福岡県日蓮宗青年会**」に『**雅楽研鑽課**』と言う課がある。読んで字の如く活動内容は雅楽を演奏する課だ。雅楽と言えば、神前の慶事によく聞く「越天楽」は有名である。

神社なら神様に、お寺なら仏様に、**音楽を奉納する**という目的は同じことである。

高校時代吹奏楽部でサックスを担当していた私は、先輩からの誘いに「はい、やりたいです！」と二つ返事。

先輩「じゃあ、楽器は何やりたい？」

公輔「えぇっと、じゃあ・・・、しちりき？ですかね」

先輩「ひ！ちりきね！」

これが、雅楽を始めたきっかけだ。当時は、雅楽の知識があるはずもなく、唯一知っていた（実際はそれすら間違っていたが）、ひちりきの名前をあげた。

雅楽では、主に篳篥（ひちりき）、龍笛（りゅうてき）、笙（しょう）と言う楽器が使われる。

雅楽を身近な音楽としたのは東儀秀樹の演奏する篳篥である

東儀秀樹氏

以前福岡市内のホテルで東儀さんの篳篥のソロコンサートがあった。和楽器でビートルズの「レット・イット・ビー」を聞いた時の感覚は今も忘れない。

が、うまい人の音を聞いて、すぐに吹けるようになれば、苦労はしない。実際に吹いてみると、難しい。楽譜のようなものはあるが、カタカナが並んでいるだけで何のこっちゃ・・・？である。

「じゃあ、2年後の先師法要でデビューやけん、頑張って！」

と楽器を吹いた初日に先輩から告げられた。それから、月一回のペースで、練習を重ね、先輩と一緒ならば、何とか吹けるぐらいにはなった。

しかし、今回の先師法要では先輩はいない。演奏するの4人は同年代、しかも全員が初心者。「このままではいかん！」と奮い立ち、四人だけで練習し続け、やっと先日、先輩方から合格点を頂いた。

三月六日、博多の銅像護持教会で行われる先師法要は、この二年間の集大成。本邦初公開の演奏が私達の法要に花を添えられるように頑張ろうと思う。

人前に出るとすぐに緊張してしまうが、自分に与えられた責務はしっかりと果たそうと思う。

当日、檀信徒の席からはちょっと見えにくい一番奥に、公輔は座っている。それでも、篳篥の大きい音で、存在感は抜群だ！篳篥のような男になりたい、と思う今日この頃である。

本堂で演奏

（公輔）

お知らせ

4月26日火曜　福岡県お題目の集い

法華経のご縁をひとりでも多くの方へ

福岡市　東公園　日蓮聖人銅像護持教会本堂　御前１０時より

参加費　２０００円（お弁当付き）

毎年、お寺より送迎の車を出します。参加ご希望の方は４月初旬までご返事をください。　現地参加も大歓迎です。